

平成20年度

第4回

(集団研修)

共生による森林保全コース

実施要領

平成20年8月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

## 目 次

1. コース基本情報	1
2. コース目的	1
3. 到達目標	1
4. 研修プログラム	2
5. 研修員参加資格要件	3
6. 研修実施体制	3
7. 研修の評価	4
8. 研修付帯プログラム	5
9. 研修・宿泊場所	6
10. その他	6

### 付属資料

付表－1 研修員の業務関連情報

付表－2 研修カリキュラム

付表－3 平成 20 年度日程表（案）

付表－4 年度別受入実績表

## 1. コース基本情報

(1) コース名

和文：(集団研修) 共生による森林保全

英文：Group Training Program on “Forest Management Through Coexistence”

(2) 受入期間

平成 20 年 8 月 24 日 (日) ~11 月 15 日 (土)

(3) 技術研修期間

平成 20 年 9 月 1 日 (月) ~11 月 14 日 (金)

(4) 定員、割当国

定 員：12 名 + 1 名 (個別型)

割当国：(下線は受入国)

アルゼンチン、ブラジル、カンボジア、中華人民共和国 (2)、ブルキナファソ、フィジー、ミャンマー、ニジェール、インド、ケニア、エチオピア、ベトナム、パプアニューギネア

個別型：サモア

(5) 類型

中核人材育成型

## 2. コース目的

本コースは、わが国の森林の歴史と役割、森林行政、住民の参加などによる森林の保全・造成への取組みの重要性、森林施業技術、森林造成技術について森林保全と人間活動が効果的に共生し成果を生み出す知識・技術習得の研修を行い、各国で現存する森林の保全、人間と森林の共生、育成、森林造成促進の中核となる人材を育成することを目的とする。

## 3. 到達目標

- (1) 森林保全と人間活動が効果的に共生し、成果を生み出す手法について説明できる。
- (2) 森林資源の把握手法と森林の効用を説明できる。
- (3) 森林の生物多様性保全上の役割を説明できる。

## 4. 研修プログラム

### (1) 研修内容

来日後一週間のオリエンテーションの後、帰国までの期間、研修を実施する。主に講義、実習、視察、討論から構成される。

#### ア. 研修カリキュラム（付表-2 参照）

#### イ. ジョブレポート発表会

##### (ア) 目的

- a. 研修員自身が問題点を再認識する。
- b. 研修員相互間で問題意識を共有する。
- c. 講師が研修員の業務内容、研修で習得したい技術・知識を理解する。

これらの発表を通じ、講師より個々の研修員の期待に対してできること、できないことを明確に示す意見交換の場とする。

##### (イ) 発表内容

研修員は以下の3点について主に発表する。

- a. 自国でどのような仕事に従事しているのか。
- b. 業務でどのような問題を抱えているか。
- c. 研修の中で習得したい技術、知識

#### ウ. アクションプラン発表会

##### (ア) 目的

- a. 研修員が帰国後に取り組むべき課題を明確にする。
- b. 実施可能な計画の立案能力を向上させる。
- c. 研修結果として発表会資料を帰国後利用する。

##### (イ) 発表内容

ジョブレポートで発表した問題点および研修中に新たに想定された問題点の解決のための計画を策定し、その目標達成のためのアクションプランを発表する。（必要記載事項として、タイトル、解決すべき問題に対する目標、期間、場所、実施主体、活動内容などについての記述）。

- (2) 使用言語 英語

## **5. 研修員参加資格要件**

当該コース募集要項記載の条件

- (1) 森林科学の一般的知識、関連する自然科学及び社会科学の基礎的知識を有し、森林行政や森林経営について5年以上の実務経験がある者
- (2) 大学卒業または同等の学力を有する者
- (3) 年齢40歳以下の者。ただし、野外活動が多いことから、十分な体力があり、女性は妊娠していない者

各コース資格要件

- (1) 所定の手続により割当国政府から推薦されていること
- (2) TOEFL CBT 200点（PBT 578点）以上に相当する英語能力を有すること
- (3) 心身ともに健康なこと
- (4) 軍隊に服役していないこと

## **6. 研修実施体制**

本コースは、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（以下JICA帯広）が計画するコースの実施に関する業務を社団法人海外林業コンサルタント協会に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営するものとし、具体的業務分担は次のとおり。

- (1) JICA 帯広
  - ア. 実施計画書作成（コース目的、到達目標、研修期間など）
  - イ. 評価
  - ウ. 実施予算の執行管理
  - エ. 募集要項および実施要領等の作成
  - オ. その他
- (2) 社団法人海外林業コンサルタント協会
  - ア. 日程表の調整・作成

イ. 講師、視察先等への連絡・確認

ウ. テキスト、資料等の手配

エ. その他

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言等

(4) 研修監理員

技術研修期間中、(財)日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員を配置する。

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳・翻訳

ウ. その他

## 7. 研修の評価

(1) 評価の目的

コースの到達目標（1頁参照）に基づき、研修成果の測定、分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本コースの質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による到達目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 改善検討会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、社団法人海外林業コンサルタント協会が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度のコース改善に向けて対応方針を検討する。

## 8. 研修付帯プログラム

### (1) ブリーフィング

来日直後に、帯広国際センター（以下 OBIC: Obihiro International Center）で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

### (2) ジェネラルオリエンテーション

OBIC で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、経済、教育、政治・行政などを紹介する。

### (3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として 10 時間の日本語講習を実施する。

#### 付帯プログラム日程(予定)

日 程	内 容
8 月 25 日 (月)	ブリーフィング
8 月 26 日 (火) 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の社会と日本人」 ブリーフィング
8 月 27 日 (水) 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の政治、行政」「日本の経済」 講義「日本の歴史・文化」「日本の教育」
8 月 28 日 (木)	日本語講習
8 月 29 日 (金)	日本語講習

## 9. 研修・宿泊場所

帯広国際センター (OBIC)

所在地：〒080-2470 北海道帯広市西 20 条南 6 丁目 1 番地 2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

## 10. その他

### (1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

### (2) 研修員の待遇

#### ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

#### イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

### (3) 国際理解教育支援

国際理解教育の推進のため、本コースに地域の小中学校や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上



平成20年度「共生による森林保全」コース カリキュラム

単位：日

到達目標	項目	科目	講義	実習	視察	討論	担当講師・機関	講義・視察・実習等の目的	講義・視察・実習等の内容
(1)森林保全と人間活動が効果的に共生し成果を生み出す手法を理解する。	日本の森林・林業の概要	日本の森林・林業	1.0				JOFCA 長縄 肇	日本の森林・林業の概要を理解する	日本の森林の特徴と分布、林業の歴史・現状、主要樹種等( JOFCA作成のハフ Forestry in Japan使用)
		森林関係の法律と森林計画制度・日本の造林技術	1.0				JOFCA 長縄 肇	森林関係の法律と森林計画制度・日本の造林技術について理解する	森林関係の法律と森林計画制度・日本の造林技術の仕組みと実際
		国有林の森林経営	0.5		0.5		北海道十勝東部森林管理署長 治山 課長	国有林について理解する。本別公園(治山の森)及び足寄「松川実験林(針広混交林の択伐施業)視察を含む	国有林の概要と都市近郊公園における治山事業及び択伐施業実験林などを紹介する
			0.5				林野庁経営企画課	国有林の森林経営を理解する	日本の国有林野事業の概要
		民有林の林業経営	0.5				竹中林業 代表取締役 竹中 一元	日本の民有林における林業経営を理解する	竹中山林の経営概要を紹介する
		林業事業体の経営	0.5		0.5		(株)北都 代表取締役社長 山崎 正明	日本の林業事業体における林業経営を理解する	山崎山林の経営概要を紹介する
	日本の森林・林業に関する制度	日本の保安林制度	0.5				林野庁治山課	日本の保安林制度の概要を理解する	日本の保安林の仕組みと内容
		日本の森林・林業に関する法制度	0.5				(財)林政総合調査研究所 研究員 澤登 芳英	日本の森林・林業法制度の概要を理解する	森林・林業に関する法律の歴史と現状
		森林組合制度の概要	0.5				林野庁経営課	日本の森林組合制度について理解する	森林組合の歴史、仕組み、内容
	地方行政と森林	北海道の森林行政	0.5				道庁水産林務部総務課 林務企画G主査 常本 誠三	北海道の森林行政を理解する	北海道の森林行政
		帯広市の森林施業・緑化事業	0.5		0.5		帯広市都市建設部 みどりの課係長 磯野	帯広市の森林・緑化への取組を理解する	帯広市の森林の概要、施業の方針
	海外における日本の森林・林業協力	JICAによる林業協力	1.0				JICA地球環境部第一グループ	JICAによる協力の方針と内容を理解する	JICAによる森林・林業協力の歴史、現状、方向
		海外におけるNGOの取り組み	0.5				(特定)地球緑化センター 緑の協力隊事業部主任 菅沼 慶士	ボランティアによる海外緑化活動への取組事例を学ぶ	NPOによる中国における緑化活動への取組事例を紹介する
	森林保全と人間活動の共生	人々と森林ー日本の土地所有制度と森林	1.0				技術士 岡部 廣二	日本の森林所有制度を理解する	日本の土地所有制度と森林所有制度の歴史と現状
		えりも緑化事業	0.5		0.5		日高南部森林管理署署長 えりも治山事務所主任	荒廃海岸の緑化「えりも岬国有林治山事業」の歴史を理解する	えりも緑化事業の施工経過と現状視察
		住民参加による森林管理	1.0				北海道大学 農学部 教授 榎 裕宏	住民参加による森林管理の意義と方法を理解する	住民参加による森林管理の意義と方法等の説明
		森林組合の活動	1.0				豊頃町森林組合 専務理事 中井 隆志	森林組合による民有林経営など森林組合活動の実態を理解する。	森林組合(工場設備、作業現場を含めて)と森林所有者との関係など
		持続可能な森林経営の確立	0.5				JOFCA会長 小澤 晋照	持続可能な森林経営の理論と方法論を理解する	持続可能な森林経営の理論と方法論を講義
		持続的な森林管理の基準指標	0.5				東京大学農学部 教授 白石 則彦	持続的森林管理の基準指標を理解する	各国の森林管理の基準について
		日本の森林と日本人の生活ー変遷と現状ー	0.5				(財)林政総合調査研究所 研究員 澤登 芳英	日本人の生活と森林との係わり合いを理解する	日本人の生活と森林との係わり合いの歴史と現状を説明する
民有林における森林保全活動		0.5		0.5		前田一歩園財団 山林課長 西田 力博	日本の民有林における財団設立による「自然を壊さない取組み」を理解する	民有林のさまざまな態様と活動(国立公園内の民有林「前田一歩園の経営」)	
小学校における森林教育		0.5				元小学校教諭 柏本 洋子	小学校における森林教育を紹介する	小学校における森林教育の現状説明	
参加型手法		PCM手法	2.0	2.0			JOFCA 千葉 裕起 山下 昌一	PCM手法を理解し、アクションプラン作成に活用する	PCM手法の説明と実習
(2)森林資源の把握手法と森林の効用を理解する。	森林資源の把握	森林情報収集	0.5	0.5			(財)林野弘済会帯広支部 参与 北野 治義	収穫調査の実際を理解する	収穫調査手法とその実際
		森林資源把握方法(森林GISの概要)	0.5				道立林業試験場 企画指導部 資源解析科長 菅野 正人	森林資源等把握のための森林GISの概要を理解する	森林の管理・経営に必要な森林資源等の把握のための森林GIS(GISに必要なデータの取り方を含めて)についての説明
		森林管理におけるGISの利用事例	0.5		0.5		朝日航洋株式会社	森林管理におけるGISの利用法を理解する	森林GISの基本的事項説明と森林管理における利用事例の紹介
森林造成技術	パイロットフォレスト・別寒辺牛川河畔林	0.5		0.5		北海道森林管理局 根釧西部森林管理署 流域監理調整官	パイロットフォレストの造成について理解する	パイロットフォレストの造成の歴史、パイロットフォレストの造成に使用された機械類	
	森林修復のための技術			0.5		帯広NPO28サポートセンター 理事長 千葉 養子	森林修復のための技術を理解する。	カミネコン(組立式再生紙製植樹ポット)による植林技術について実習を含めて学ぶ	
森林資源の持続的利用	東京大学演習林の森林経営法 東大演習林概要・林分施行法	0.5		0.5		東京大学演習林 林長 梶 幹男	森林保全と利用の調和について理解する	林分施業法の考え方と実際	
	森林施業の基礎知識	1.0				(独)森林総合研究所北海道支所 地域研究監 丸山 温	森林施業の基礎知識を習得する	森林施業の基礎知識	
	持続可能な天然林施業のための更新戦略	0.5				北海道立林業試験場 林業経営部 育林科 研究職員 中川 昌彦	持続可能な天然更新の基礎知識を習得する	天然更新の基礎知識	
	高密度路網を基盤とした天然林施業	0.5		0.5		北海道森林管理局 (石狩森林管理署管内)	定山漢国有林における高密度路網を基盤とした森林施業を理解する	北海道森林管理局石狩森林管理署定山漢国有林における高密度路網を基盤とした森林施業の理解を深めるため現地視察も行う。	
	林産物の利用	0.5		0.5		道立林産試験場	林産物(北海道及び熱帯高密度材)の利用について理解する	林産試験場での研究状況の説明及び施設見学	
	落葉広葉樹林施業研究	0.5				九州大学北海道演習林 林長 古賀 信也	落葉広葉樹林施業に関する取組を理解する	落葉広葉樹林の天然更新施業見学など	
	木質バイオマスエネルギー利用			0.5		足寄町経済課	木質バイオマス利用(ペレット)に関する製造、利用などの取組を理解する	間伐材など小径木の有効利用に向けた木質ペレットの製造過程などの視察	
	椎茸ほだ木施業	0.5		0.5		新得町しいたけ生産組合 事務局長 関根 悦朗	椎茸栽培用ほだ木生産林(ミナラ植栽試験林)の造成・保育等技術等の概要を理解する	しいたけモデル林で実習	
(3)森林の生物多様性保全上の役割を理解する。	森林の生態・生物多様性	育種と森林の遺伝資源	1.0				(独)森林総合研究所林木育種センター北海道育種場 育種課長 丹藤 修	遺伝資源としての森林と育種について理解する	遺伝資源としての森林及び林木育種
		森林植生	0.5				(独)森林総合研究所北海道支所 植物土壌系研究グループ長 相澤 州平	森林植生について理解する	森林植生についての説明
		森林動物	0.5				(独)森林総合研究所北海道支所 生物多様性担当チーム長 上田 明良	森林動物について理解する	森林動物の特徴、把握方法等についての説明
		沖縄の森林の概要・保護林の概要・西表島の国有林	1.0		1.0		九州森林管理局西表森林環境保全ふれあいセンター	日本の森林の多様性(亜熱帯林)及びマングローブ林の保全・保護について理解する	亜熱帯保護林の管理等
	熱帯林育種	1.0	1.0			(独)森林総合研究所林木育種センター西表熱帯育種技術園	日本での熱帯林育種への取組を理解する	熱帯育種技術園での育種活動	
	森林の生物多様性保全の種々の状況	地球温暖化防止での森林の役割	0.5				林野庁海外林業協力室	地球温暖化防止上の森林の役割について理解する	地球温暖化防止上の森林の役割についての説明
		森林と海洋	1.0				四日市大学 教授 松永 勝彦	海、水産資源と森林の関係について理解する	海、水産資源と森林の関係についての説明
北海道の自然保護		0.5				北海道環境科学センター 自然環境部主任 研究員兼野生生物科長 宇野 裕之	北海道の自然保護を理解する	北海道の自然保護	
	湿地における野生生物保護			0.5		猛禽類学研究所 代表 齊藤 慶輔	湿地における野生生物の保護管理の実際を理解する	環境省釧路湿原野生生物保護センターを訪問し、湿地における絶滅危惧種の保護・増殖等に関する研究活動についての説明を受ける。	
	市民と自然とのふれあい			0.5		野幌森林公園事務所 自然ふれあい交流館	北海道の原始林の面影を残した大都市近郊の平地林の保全保護と利用の調和を視察する。	北海道野幌森林公園(自然ふれあい交流館)を訪問する。	
その他	コースオリエンテーション	0.5				JOFCAコースリーダー	研修コース概要説明、研修員に求められることなどを把握する	研修コース概要等に関してコースリーダーからの説明	
	学校訪問			0.5	0.5	OBIC	学校訪問で国際交流を図る	国際交流の推進	
	ジョブレポート発表会				0.5	JOFCAコースリーダー	研修員各員の森林・林業分野の現状及び担当する業務内容、問題点を研修員及び関係者が互いに理解する。	研修員が自国で抱える問題点の把握、研修員の学びたい内容の確認	
	研修前半のレビュー及び後半のオリエンテーション				0.5	JOFCAコースリーダー	研修の整理を行う	研修前半の振り返りと後半の研修内容の説明	
	アクションプラン作成検討・準備		2.0		1.0	JOFCAコースリーダー	PCM手法を活用しアクションプランを作成する	アクションプランの作成	
	アクションプラン発表会				2.0	JOFCAコースリーダー	アクションプランを通して研修成果を理解する	アクションプランの発表	
	表敬等				1.5	林野庁、北海道庁、帯広市長、北海道森林管理局			
			28.5	6.0	10.0	4.5	合計 = 49.0		

月日	曜日	形態	項目	プログラム	講師または担当機関	宿泊
8/24	日			来日		帯広
8/25	月			ブリーフィング	JICA・北方圏センター	〃
8/26	火			オリエンテーション	〃	〃
8/27	水			オリエンテーション	〃	〃
8/28	木			日本語研修	〃	〃
8/29	金			日本語研修	〃	〃
8/30	土			休日		〃
8/31	日			休日		〃
9/1	月		(OBIC→市役所)	市長表敬(9:00~9:30) コースオリエンテーション(10:30~11:30) ジョブレポート発表会(13:30~16:30) ティーパーティー(16:45~)	帯広市市民活動部親善交流課長 角田正義 JICA/JOFCA 長縄肇	〃
9/2	火	講義	日本の森林・林業の概要	①日本の森林・林業の現状と課題、②日本の林政を担う組織と機能(10:00~12:00,13:00~16:00)	JOFCA 長縄肇	〃
9/3	水	講義	日本の森林・林業の概要	①森林関係の法律と森林計画制度、②日本の造林技術 (10:00~12:00,13:00~16:00)	JOFCA 長縄肇	〃
9/4	木	講義 視察	(OBIC→現地) 地方行政と森林	帯広市の森林施業・緑化事業 (10:00~12:00:OBIC講義/13:30~15:30:視察)	帯広市都市建設部 みどりの課みどりと花係長 磯野	〃
9/5	金	講義	森林保全と人間活動の共生	人々と森林—日本の土地所有制度と森林 (10:00~12:00,13:00~16:00)	技術士 岡部 廣二	〃
9/6	土			休日		〃
9/7	日			休日		〃
9/8	月	講義 実習	参加型手法	PCM手法(10:00~12:00,13:00~16:00)	JOFCA長縄肇 /山下 昌一	〃
9/9	火	講義 実習	参加型手法	PCM手法(10:00~12:00,13:00~16:00)	JOFCA長縄肇 /山下 昌一	〃
9/10	水	講義 実習	参加型手法	PCM手法(10:00~12:00,13:00~16:00)	JOFCA長縄肇 /山下 昌一	〃
9/11	木	講義 実習	参加型手法	PCM手法(10:00~12:00,13:00~16:00)	JOFCA長縄肇 /山下 昌一	〃
9/12	金	講義	海外における 日本の森林・林業協力	JICAによる林業協力 (10:00~16:00)	JICA地球環境部第一グループ	〃
9/13	土			休日		〃
9/14	日			休日		〃
9/15	月	移動	(帯広→えりも)			えりも
9/16	火	視察	(えりも→帯広) 森林保全と人間活動の共生	えりも緑化事業(10:00~12:00,13:00~15:00)	日高南部森林管理署 署長 花木健英 えりも治山事業所主任 安田麻美	帯広
9/17	水	実習	(帯広→糠平) 森林資源の把握	森林情報収集(10:30~12:00,13:00~15:00)	林野弘済会帯広支部 参与 北野 治義	〃
9/18	木	講義 視察	(帯広→本別→足寄→阿寒) 日本の森林・林業の概要	国有林の森林経営(10:00~12:00,13:00~15:00)	十勝東部森林管理署 署長 山田 孝信 治山課長 黒岩祐子	阿寒
9/19	金	講義 視察	(阿寒→標茶) 森林造成技術	パイロットフォレスト・別寒辺牛川河畔林 (10:30~12:00, 13:00~15:30)	根釧西部森林管理署 署長 吉田 朋泰 流域管理調整官 横山宏幸	〃
9/20	土			休日		〃
9/21	日			休日		〃
9/22	月	講義 視察	(標茶→前田→歩園→釧路) 森林保全と人間活動の共生	民有林における森林保全活動(10:00~12:00,13:00~15:00)	前田一步園財団 山林課長 西田 力博	釧路
9/23	火	講義 視察	(釧路→北斗) 森林の生物多様性保全の種々の状況	湿地における野生生物保護(10:00~12:00)	猛禽類医学研究所 代表 斉藤 慶輔	〃
9/24	水	講義 視察	(釧路→山崎山林→帯広) 日本の森林・林業の概要	林業事業体の経営(10:00~12:30)	株式会社 北都 代表取締役社長 山崎 正明	帯広
9/25	木	講義	日本の森林・林業の普及	日本の森林・林業技術普及の概要及び普及方法 (10:00~12:00,13:00~16:00)	JOFCA 長縄肇	〃
9/26	金	討論	その他	アクションプラン作成検討・準備(10:00~12:00,13:00~16:00)	JOFCA 長縄肇	〃
9/27	土			休日		〃
9/28	日		(帯広→富良野)	休日		富良野
9/29	月	講義 視察	(富良野→札幌) 森林資源の持続的利用	東京大学演習林の森林経営法 東大演習林概要・林分施業法 (11:00~12:00,13:00~15:00)	東京大学演習林 林長 梶 幹男	札幌
9/30	火	表敬 講義		北海道森林管理局表敬訪問(9:20~9:30) 講義:北海道の国有林概要(9:30~11:00) 北海道庁表敬訪問 (11:30~12:00)	北海道森林管理局企画調整部 企画課長補佐 加納 正幸 北海道水産林務部総務課 主査(国際交流) 鏡 法裕/林務局長予定	〃

月日	曜日	形態	項目	プログラム	講師または担当機関	宿泊
10/1	水	講義 視察	(札幌→森林管理局→定山溪→札幌) 森林資源の持続的利用	高密度網を基盤とした天然林施業(定山溪) (10:00~12:00,13:00~15:30)	北海道森林管理局正副調査部正副課長 佐藤 肇 総務企画課長 村上 俊	札幌
10/2	木	講義	(札幌→美瑛) 午前:森林資源の持続的利用 午後:森林資源の把握	持続可能な天然林施業のための更新戦略 (10:30~12:00) 森林資源把握方法 (森林GISの概要-GISに必要なデータの取り方を含めて) (13:00~15:00)	北海道立林業試験場 林業経営部育林科 研究職員 中川 昌彦 企画指導部 資源解析科長 菅野 正人	〃
10/3	金	講義	森林の生物多様性保全の種々の状況	森林と海洋(10:00~12:00,13:00~16:00) (講義場所:ホテルサッポロメッツ)	四日市大学環境情報学部 教授 松永 勝彦	〃
10/4	土			休日		〃
10/5	日			休日		〃
10/6	月	講義	午前:地方行政と森林 午後:森林の生物多様性保全の種々の状況	北海道の森林行政 (10:00~12:00) 北海道の自然環境科学研究 (13:30~15:30) (講義場所:ホテルサッポロメッツ)	北海道庁水産林務部林務企画グループ 主査 工藤 森生 北海道環境科学研究センター 自然環境部 主任研究員兼野生生物科長宇野裕	〃
10/7	火	講義 視察	(札幌→江別) 森林の生態・生物多様性	育種と森林の遺伝資源 (10:30~12:00,13:00~15:30)	独立行政法人 森林総合研究所 林木育種センター 北海道育種場 育種課長 丹藤 修	〃
10/8	水	講義 視察	森林資源の持続的利用	森林施業の基礎知識(10:30~12:00,13:00~15:30) (場所:森林総合研究所/午前:講義・午後:視察)	独立行政法人森林総合研究所北海道支所 地域研究監 丸山 温	〃
10/9	木	講義	午前:森林の生態・生物多様性	森林植生 (10:30~12:00) 森林動物(13:30~15:30) (講義場所:ホテルサッポロメッツ)	独立行政法人森林総合研究所北海道支所 更新機構担当チーム長飯田滋生 生物多様性担当チーム長 上田 明良	〃
10/10	金	表敬 講義 視察	(札幌→旭川) 森林資源の持続的利用	北海道林産試験場 場長表敬(11:00~11:10) 北海道における林産物の利用「北海道における林産物の利用状況」(11:10~12:15) 北海道における林産物の利用「木材利用と材質」(13:15~14:15) 林産試験場の概要・施設案内 (14:15~15:30)	北海道立林産試験場場長 浅井 定美 企画指導部 経営科長 石川佳生 利用部 材質科長 佐藤 真由美 企画指導部 主任研究員 新田紀敏	〃
10/11	土	講義 視察	森林の生物多様性保全の種々の状況	市民と自然とのふれあい(自然ふれあい交流館) (13:30~15:30)	自然ふれあい交流館 副館長 山田 建 普及啓発員 濱本 真琴	〃
10/12	日			休日		〃
10/13	月	移動	(札幌→帯広)	休日		帯広
10/14	火	講義 視察 討論	(帯広→池田町) 午前:日本の森林・林業の概要 午後:研修前半の総括	民有林の林業経営(10:00~13:00) 研修前半レビュー及び後半のオリエンテーション (14:30~16:30)	(株)竹中林業 代表取締役 竹中一元 JOFCA 長縄肇	〃
10/15	水	講義	森林保全と人間活動の共生	住民参加による森林管理 (10:00~12:00,13:00~16:00)	北海道大学農学部 教授 柿澤 宏昭	〃
10/16	木	講義 視察	(帯広→豊頃) 森林保全と人間活動の共生	森林組合の活動 (10:00~12:00,13:00~15:00)	豊頃町森林組合専務理事 中井 隆志	〃
10/17	金	視察	学校訪問	国際交流の推進		〃
10/18	土			休日		〃
10/19	日			休日		〃
10/20	月	講義 視察	(帯広→足寄) 午前:森林資源の持続的利用	落葉広葉樹林施業研究(11:00~12:00,13:00~14:00) 木質バイオマスエネルギー利用(ペレットの製造及び利用) (14:30~16:00)	九州大学北海道演習林 林長 古賀 信也 足寄町長 阿久津 勝彦 経済課 商工観光振興室 岩原	〃
10/21	火	講義	森林保全と人間活動の共生 森林造成技術	小学校における森林教育(10:00~12:00) 森林修復のための技術(カミネットンによる森林造成) (13:00~14:30:OBIC講義/14:30~16:00:現地実習)	元小学校教諭 柏本洋子 帯広NPOサポートセンター理事長 千葉養子	〃
10/22	水	視察	(帯広→新得) 森林資源の持続的利用	椎茸ぼた木施業・椎茸出荷センター (10:00~12:00,13:00~13:30)	新得町しいたけ生産組合組合 事務局長 関根 悦朗	〃
10/23	木	移動	(帯広→東京)			東京
10/24	金	表敬 講義	午前:日本の森林・林業の概要 午後:日本の森林・林業に関する制度	林野庁表敬訪問(10:00~10:10) 講義:国有林の森林経営(10:30~12:00) 日本の保安林制度(13:30~15:30) (農林水産省4F会議室)	林野庁計画課海外林業協力室長 清水 邦夫 海外林業協力室研修係長 山下功三 経営企画課 企画官 本郷浩二 治山課課長補佐(企画班担当)福本 龍生	〃
10/25	土			休日		〃
10/26	日			休日		〃
10/27	月	講義	森林の生物多様性保全の種々の状況 日本の森林・林業に関する制度	地球温暖化防止での森林の役割 (10:30~12:00) 森林組合制度の概要(13:30~15:30) (農林水産省4F会議室)	林野庁計画課海外林業協力室 課長補佐(海外技術担当) 渡辺達也 林野庁経営課課長補佐(組合組織班担当) 田坂 仁志	〃
10/28	火	講義 実習	(東京→西武新宿線南大塚) 森林資源の把握	森林管理におけるGISの利用事例 (11:00~12:00,13:00~15:00)	(株)朝日航洋 奥泉 敦	〃
10/29	水	講義	海外における日本の森林・林業協力 日本の森林・林業に関する制度	海外におけるNGOの取組み (林友ビル6F会議室)(10:30~12:00) 日本の森林・林業に関する法制度(林友ビル6F会議室) (13:00~14:30)	(特定)地球緑化センター 緑の協力隊事業部主任 菅沼慶太 (財)林政総合調査研究所研究員 澤登 芳英	〃
10/30	木	講義	森林保全と人間活動の共生	持続的な森林管理の基準指標(林友ビル6F会議室) (10:30~12:00,13:00~16:00)	東京大学農学部 教授 白石 則彦	〃
10/31	金	講義 交流	午前:森林保全と人間活動の共生 午後:森林保全と人間活動の共生 夕刻~交流プログラム	日本の森林と日本人の生活・変遷と現状(10:00~12:00) 持続可能な森林経営の確立(モデルフォレスト他) (14:00~17:00) 研修員&講師・JOFCA交流会(17:30~19:00)	(財)林政総合調査研究所参与 山垣 興三 JOFCA 会長 小澤 普照 交流・意見交換会・林友ビル会議室	〃

月日	曜日	形態	項目	プログラム	講師または担当機関	宿泊
11/1	土	移動	(東京→石垣島)			石垣
11/2	日			休日		〃
11/3	月			休日		〃
11/4	火	講義 視察	(HOTEL←→石垣地方合同庁舎) 森林の生態・生物多様性	沖縄の森林の概要・保護林の概要 西表島の国有林(13:30～16:30) (場所:石垣地方合同庁舎)	九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター所長 上席自然再生指導官 杉野 恵宣 自然再生指導官 瀬高 孝男	〃
11/5	水	講義 視察	(石垣島←→西表島) 森林の生態・生物多様性	マングローブ林の保全・保護 (10:00～12:00,13:00～16:00)	〃	〃
11/6	木	講義 実習	(石垣島←→西表島) 森林の生態・生物多様性	10:30～12:00: 講義 熱帯林育種 13:00～15:00: クローン増殖技術実習	独立行政法人 森林総合研究所 林木育種セン ター 園長 山形 克明 熱帯林育種研究室長 千吉良 治 熱帯林試験係 山口秀太郎	〃
11/7	金	講義 実習 視察	(石垣島←→西表島) 森林の生態・生物多様性	10:30～12:00: 講義:熱帯林育種技術実習 13:00～15:00: 樹木園等施設内視察	〃	〃
11/8	土	移動	(石垣島→帯広)			帯広
11/9	日			休日 (アクションプラン作成)		〃
11/10	月			アクションプラン作成		〃
11/11	火	討論	アクションプラン	アクションプラン作成		〃
11/12	水	討論	アクションプラン	コースリーダーによるアクションプランに関する指導 アクションプラン発表リハーサル・討論	JOFCA長縄肇	〃
11/13	木	討論	アクションプラン	アクションプラン発表リハーサル・討論 評価会	JOFCA 長縄肇	〃
11/14	金	その他	アクションプラン	アクションプラン発表会・閉講式	JOFCA 長縄肇 JICA	〃
11/15	土			帰国		〃

## 年度別受入実績表

## 1. 応募/受入 人数

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	累計
応募数	16名	18名	16名	14名	50名
	男性13名 女性3名	男性13名 女性5名	男性12名 女性4名	男性11名 女性3名	男性38名 女性12名
受入数	12名	11名	11名	13名(個別型含む)	34名
	男性9名 女性3名	男性8名 女性3名	男性8名 女性3名	男性11名 女性2名	男性25名 女性9名

## 2. 研修員の出身国

○男性 ●女性

国名	17年度	18年度	19年度	20年度	累計
(アジア全域)					
カンボディア	○		○	○	3名
中華人民共和国			●	○●	3名
タイ	○●				2名
フィリピン	●				1名
ミャンマー	○	○	○	○	4名
ラオス		○			1名
ベトナム		○	○	●	3名
キルギス共和国			○		1名
インド				○	1名
(アフリカ地域)					
レソト			○		1名
ニジェール			○	○○	3名
エチオピア	○				1名
トーゴ	○				1名
ガーナ		●			1名
ケニア		○		○	2名
ウガンダ		●			1名
ザンビア		●			1名
ブルキナファソ				○	1名
(中南米地域)					
ドミニカ共和国	○	○			2名
ニカラグア	○				1名
アルゼンチン			●		1名
ブラジル			●		1名
グアテマラ			○		1名
メキシコ		○			1名
(中東地域)					
チュニジア	●				1名
(太平洋州)					
ソロモン	○○				2名
パプアニューギニア		○		○	2名
フィジー			○	○	2名
サモア		○		○(個別型)	2名
計	10ヶ国 12名	11ヶ国 11名	11ヶ国 11名	11ヶ国 13名	38ヶ国 47名



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター  
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2  
TEL:0155-35-1210 FAX:0155-35-1250  
ホームページ : [www.jica.go.jp/obihiro](http://www.jica.go.jp/obihiro)